

四旬節黙想会 資料

【 四旬節の叙唱 】

叙唱

叙唱は、典礼歴において祝われる祝日や季節に合わせて選ばれる幾通りもの多様な形式がありますが、年間の主日に唱えられる叙唱を例にとってみると、司祭は会衆の前で、神が行なってくださった救いのみわざ、イエス・キリストの死と復活を通して成し遂げられた救いの恵みをたたえ、感謝と賛美へと招きます。

ミサ（最後の晩さんの記念）の中心部に移る前に、叙唱において明らかにされる展望において、イエス・キリストは人類を救うために父なる神から遣わされた神の独り子、父なる神が人類の歴史の中に最終的に送られた救い主であることが示されます。

四旬節 五 （第一主日） 荒れ野の試み

主キリストは四十日間の断食によって、四旬節の務めを行うわたしたちに模範を示されました。悪霊のいざないを退けられた主は、わたしたちが罪の力に打ち勝ち、清い心で過越しの神秘にあずかり、復活の喜びを迎えるよう導かれます。

※マタイ 4・1～11

四旬節 六 （第二主日） 主の変容

主キリストはご自分の死を弟子たちにお告げになった後、聖なる山で光り輝く姿を現わし、モーセと預言者のことばのとおり、苦しみを経て復活の栄光に入ることをお教えになりました。

※マタイ 17・1～9

四旬節 七 （第三主日） サマリアの婦人

サマリアの婦人に水を求められたキリストは、その婦人の心に信仰の恵みを与え、愛の火

を燃え上がらせて回心に導かれました。

※ヨハネ 4・5～42

四旬節 八 (第四主日) 生まれながらの盲人

キリストはすべての人を照らすまことの光、暗闇を歩く民を信仰に導くかた。罪の重荷を負って生まれた人々を洗礼の水によって解放し、神のこどもとしてくださいます。

※ヨハネ 9・1～41

四旬節 九 (第五主日) ラザロ

友の死をいたんで泣き、墓に眠るラザロを呼び起こされたキリストは、すべての罪の闇に住む民をあわれみ、とうとい秘跡によって新しいのちに導かれます。

※ヨハネ 11・1～45

(2023年3月19日 日曜日、黙想会がありました。ミサにおける叙唱の位置付けと役割のご説明と、四旬節の叙唱に示されるイエス様のお姿の説明がありました。そして、四旬節の間に、この資料にある聖書の箇所を私達ひとりひとりが読み、静かにイエス様に触れるように勧めてくださいました。)